

「客と招待する者への教訓」

2023年08月30日

「誰でも、高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」また、イエスは招いてくれた人にも言われた。「昼食や夕食の会を催すときには、友人も、兄弟も、親類も、近所の金持ちも呼んではならない。その人たちも、あなたを招いてお返しするかもしれないからである。宴会を催すときには、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。そうすれば、彼らはお返しができいから、あなたは幸いな者となる。正しい人たちが復活するとき、あなたは報われるだろう（ルカ14：11～14）

主イエスは、食事会に招かれて、出席された。すると、招待された客が上席を選んで着席している様子が見えた。そこで、一つの譬えを話された。「婚礼の祝宴に招待されたら、上席に着いてはならない。あなたより名誉ある人が招かれており、あなたやその人を招いた人が来て、『この方に席を譲ってください』と言うだろう。その時、あなたは恥をかいて末席に座ることになる。招待されたら、末席に座りなさい。そうすれば、招いた人が来て、『友よ、もっと上席にお進みください』と言うだろう。その時、同席の人みんなの前で面目を施すことになる。」人は誰でも、高い、目立つところに立って、人から注目されることを望む。座る位置、立ち位置によって、その人の評価が分かるから、高い評価を受けることを求めて、上座に座ることを選ぶのである。これは、ファリサイ派の人々に対する指摘であろう。マタイ福音書23章6節には、彼らを「宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み」と批判している。そして、この批判は人生の知恵や社会的儀礼を言うだけでなく、人への謙遜は、神の前での謙遜に通じていることを教え、「誰でも、高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」という言葉で締めくくっている。主イエスは、ご自分を徹底的に低められた。「あなたがたの中で、偉くなりたい者は、皆に仕える者となり、あなたがたの中で、頭になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子（主イエス）は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである（マルコ10：43b～45）」と、人に仕え、ご自分の命を献げるほど低くなると明言されている。パウロは、主イエスの低さを「キリストは、神の形でありながら、神と等しくあることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の形をとり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました（フィリピ2：6～9）」と書いている。主イエスの十字架の低さが復活の高さをもたらし、人間の救いを実現、成就した。この逆説が福音の真理である。そして、誰を客に招くかによって、その人のステータスが現れるが、招く時の心得を語っている。友人、兄弟、親戚、金持ちを招くな、その人たちは、お返しをするかも知れないからだと言われる。招待する愛はあくまで一方通行で、返礼を期待してはならない。宴会を催す時は、貧しい人、体や足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。彼らはお返しできないから、あなたの愛は、彼らに間違いなく届いているからである。社会的互惠性が常識であり、上の者を招くと名誉になり、下の者を招くと恥になる。そのような打算を超えて、主イエスが常にそうであったように、生きることに苦悩している人を招きなさい。そして、「正しい人たちが復活するとき、あなたは報われるだろう」と括られた。神の終末的祝宴に招かれるのは、お返しできない人々を招いた人であり、彼らに神からの大いなる報いがあると告げている。